授業科目名	開講年次	開講時期	単位数	時間数	実務経験
成人老年看護学実習Ⅱ	3年次	前期	3	120	有

科目責任者	小形紀子他
目的	急速に健康状態が変化する成人・老年期患者を総合的に捉え、異常の早期発見と日常生活の自立／自律に向けた回復の促進を目指し、看護実践に必要な臨床判断と看護実践能力を養う。
目標	1. 急速に健康状態が変化する患者を身体的・心理的・社会的・文化的側面から総合的に理解できる。 2. 異常の早期発見と安全・安楽・自立／自律に留意した看護援助を行うことができ、自己の実践を評価しながら看護展開できる。 3. 患者を含むチームメンバーと連携・共有しながら、看護援助を計画・実践する必要性がわかる。 4. 看護実践における自己の行動を振り返り、看護者としての在り方や看護観を深め、自己の課題を明確にできる。

内容

回	内容
1	学内オリエンテーション（実習目的・目標・方法、病棟の概要等） 学内演習（知識・技術） 病棟オリエンテーション、受け持ち患者の紹介・挨拶、情報収集
2 3	（1例目）患者の情報収集、アセスメント、関連図作成、看護問題の抽出
4	学内演習（患者のアセスメント、関連図作成、看護問題の抽出、技術練習、文献検索）
5	中間カンファレンス、看護計画立案
6	中間評価面接、計画に基づいた看護ケアの実施、評価・修正
7 8	（2例目）患者の情報収集、アセスメント、関連図作成、看護問題の抽出、看護計画立案、計画に基づいた看護ケアの実施、評価・修正
9	学内演習（患者のアセスメント、関連図作成、看護問題の抽出、看護計画立案、技術練習、文献検索）
10 11 12 13	（2～3例目）患者の情報収集、アセスメント、関連図作成、看護問題の抽出、看護計画立案、計画に基づいた看護ケアの実施、評価・修正
14	最終カンファレンス、計画に基づいた看護ケアの実施、評価
15	記録提出、最終評価面接

履修条件	1・2年次のすべての単位を修得していること
評価方法・基準	実習要綱に定める